

法人（事業所）理念		こどもの将来性を高めることは、よりよい社会を作ることに繋がり、社会的・経済的に有効な未来への投資である。				
支援方針		地域と共に、多様な子ども・家庭を見守り、多面的に支援する。それぞれの目標に向けて旅立てるように寄り添う。				
営業時間		8 時	30 分	17 時	30 分	送迎実施の有無 あり○ なし
<b>支 援 内 容</b>						
本人支援	健康・生活	目標： 基本的な生活習慣の習得と健康な身体づくりをサポートする 食事支援： 食事のマナー、箸やスプーンの使い方、偏食への対応 身辺自立： 着替え、トイレトレーニング、手洗いの習慣化 生活リズムの確立： 自由遊びから片付け、リズム体操やランニング、活動へのリズムを絵カードで掲示する。 健康教育： 性教育や基本的な体調管理、気圧や気温、季節の変化と体調の関係を意識する。				
	運動・感覚	目標： 基本的な運動能力や感覚統合を促進する 粗大運動： ジャンプ、走る、バランスをとる、ボール遊び、サーキット遊び 微細運動： 紙遊び、シール・糊・絵具やクレヨンを使ったカラーージュ遊び、パズル、ハサミ・折り紙を使った手先の遊び 感覚統合遊び： トランポリン、感触遊び（砂・粘土・片栗粉・小麦粉・スライム遊び） リズム運動： 音楽に合わせたダンス、リズム遊び				
	認知・行動	目標： S S Tを通して 考える力、集中力、問題解決能力を育成 認知トレーニング： 数や色、形の認識、記憶ゲーム ルール理解・順序立て： オセロ、しっぽ鬼など 自己コントロール： 待つ練習、順番を守る、感情の表現方法 注意力の強化： 指示を聞く練習、視覚・聴覚の注意トレーニング				
	言語 コミュニケーション	目標： 言語の理解と表現、コミュニケーション能力を育成 言語理解： 行動を言葉にして表現する。指示理解(全体指示・個別指示) 表現力： 質問に対する答え、自己紹介、感想を言う練習 対人コミュニケーション： ペア活動、グループでの S S T、人の発表を聞く、人の意見に耳を傾ける、評価する。 非言語コミュニケーション： ジェスチャー、絵カードを利用				
	人間関係 社会性	目標： 他者とコミュニケーションを取れる。 協調性の育成： グループ遊び、共同作業、人との距離感を意識する。 ルールの理解： 順番を守る、約束を守る、場面に応じた行動を意識する。 感情の認識と表現： 絵カードを使って適切な感情表現を学ぶ、そう思った理由を伝える。 自己肯定感の向上： できたら褒める・望ましくない行動をしなかったら褒める、認める関わりを行っていく。				
家族支援		目標： 家族全体が子どもの特性や置かれている状況を理解し、安心して子育てができるように支援する。 保護者相談・カウンセリング： 送迎時や面談時に最近の児のようすを共有し、今後の支援方向について確認する。最近の困りごとを確認し、どういう対策を取ったらいいかを相談する。 パARENTプログラム実施： 子どもや自分自身を行動で客観的に見つめなおす。親も自己肯定感を持てる。 家庭での支援方法の提案： 毎日の記録や面談を通して、児の特性に対する理解を深めていく。 親子通所を通して家庭環境に合わせた生活習慣の工夫、遊び方の提案・困った行動に対しての対処の方法について相談をしている。 ミニレクチャー(毎月)を通して、児の特性や関わり方、福祉サービスの利用方法に関する情報提供就園就学・性教育などについて保護者に情報提供をしている。 保護者交流会(年1回) 保護者同士の情報交換・悩み共有のための座談会や交流会を実施している。				
地域支援・地域連携		目標： 子どもが地域社会でのびのびと生活できるよう、地域資源と連携する。 地域資源の活用： 児童館での活動を通して地域の子どもたちとのコミュニケーションの経験を持つ。図書館、公園などを活用した社会参加の場を提供する、児童館まつりへの参加。 専門機関との連携： 医療機関（発達外来）、福祉機関（児童相談所）との情報共有と連携支援、地域の理解促進： 発達障害や特別な支援が必要な子どもへの理解を深めるための啓発活動 移行後のフォローアップ： 就学・進級後も地域での生活を支えるため、学校や地域施設と連携した継続支援				
主な行事等		年間行事 春：豆まき、干潟散策 夏：縁日ごっこ 秋：ハロウィン製作 冬：クリスマス・正月製作・バレンタインデー製作      お菓子作り：何を作るか計画を立て、必要物品を買い出し、協力し分担して一つのお菓子を作る。 体操教室：体育の授業で困らないように、とび箱、縄跳び、マット運動などの動きを分けて個別に調整しながら練習を行っている。 避難訓練：防災意識の醸成、非常時の行動訓練				
職員の質の向上		目標： 職員が専門性を高め、より効果的な支援を提供できるようにする 研修・勉強会の実施： 発達障害、感覚統合療法、行動療法などの専門知識を深める スーパーバイズ： 医師・心理士からの指導・アドバイスを受ける 自己評価・振り返りの実施：定期的な自己評価とフィードバックを行い、支援の質を見直す				
移行支援		目標： 無理なく安心して通学することができる。毎年保護者に対して就学についての情報をレクチャーで共有している。就学するときにはサポートブックを作成し、就学先で先生たちが困ったときに情報提供できるようにしている。学校での困り感がないか情報収集を行い、モニタリング等で困りごとがないか話し合いを行っている。無理なく学校に通えるように、保護者と学校と連携している。				